

## 第29回技能グランプリを振り返って



第29回技能グランプリ競技主査 松本正美  
(全管連理事・技術委員長)



松本競技主査による挨拶



(写真右より) 中央職業能力開発協会・釜和明会長、同・田邊理事長に競技説明を行う

### はじめに

第29回技能グランプリ（以下、技能GP）の建築配管職種競技は2月11日(土)に沼津市のキラメッセ沼津において開催されました。

この大会は隔年での開催となっています。大会の概要や課題等の詳細は別項を参照ください。この大会は一級配管技能士のみが参加できる大会です。職業教育（訓練）の成果を試し技能を競い、競技を楽しめる場でありたいと考えています。

### 競技参加者

今大会の参加者は6社12名でした（前回、前々回が参加7名）。精鋭であったと思います。参加選手の最年長者は45歳、最年少者は23歳で平均33歳でした。年齢、技量ともに各企業の中核をなす方々と思われます。年度末の繁忙期に選

手を送り出していただいた各企業に対し感謝と敬意を表します。

主催の中央職業能力開発協会へはこの大会の意義や日時、会場などをより広く広報するよう要請しています。また、本会からは出場助成金などの方策を行っていますが参加者の大幅な増加には至っていないことは残念なことです。本会傘下の組合のご理解とご協力を切にお願いするものです。

### 競技課題について

今大会から従来あった鉛管作業をなくし三種類（鋼管、銅管、塩ビ管）の管を使用した配管作品を制作する課題としました。これは鉛管を使用することがなくなっていることから業界の要望に応えたもののご理解ください。

課題は、作品AとBを制作し両方をつなぎ合わせるものです。このことにより

課題の難易度が上がりました。また、20mmの管径を使用しているため作業量も増えていきますし、作品も大きくなっています。新課題なので作業時間や作業スペースについて今後の課題を残したように思います。作品Bには第29回であることから配管で29を作ること盛り込みました。全選手が打ち切り時間内に完成（標準時間内完成は5名）したことは誇れることです。

鉛工作業は技能要素も高く業界の伝統技能です。今後、永続してこれをやめるかどうかは皆様の議論を待ちたいと思います。

### 使用工具について

作業台を導入して立っての作業ができるようになっていきます。床面での作業よりも楽な姿勢で作業ができると考えています。今大会では7割の方が利用していました。練習時に作業台がないと必然的に床面作業となってしまいます。作業台の利用方法は各自考えておくとよいと思われます。

ガソリントーチランプはすでに製造が打ち切られており新品の購入はできません。所持している方は使用できますが、ガストーチのガス質が変わり火力が上がっていることから今後はガスのもので変わっていくものと思われます。今大会でガソリン式を使用した方は4名でした。

使用工具は原則自由にしたいと考えています。ただし、電動工具は電源が取れないことや手作業によることを原則としているので電池式のインパクトドライバーのみに限定しています。また、自分

で考えて製作した治具や工具も使用可能としたいと考えています。創意工夫は技能者の特権ですから。

銅管の曲げ加工は焼き砂を用いた「砂曲げ」で行っている方が大多数でした。手動の機械ベンダーやスプリングベンダーなどの導入を考慮する時期にきているように思われます。

工具は原則自由であればこの問題は解決されますが、自由な曲げ半径がとれなくなることもあり課題作成時には考慮する必要があると考えています。いずれも今後の課題かと思われます。

### むすびに

グローバル化が進み、この業界への入職者が少なく、また熟練技能者が退職して行くなかで希望をもって働ける環境を作りたいものです。五輪は国際大会へ出場できますが、GPにはありません。外国の国内大会の優勝者の招待、外国の大会への派遣や外国人技能者（訓練生など）の特別参加なども考慮してもよいのではないのでしょうか。外国の技術、技能、材料、工具等を見聞きし交流するのも大いに役立つものと考えます。

「ものづくり大国日本」を背負う人材を育成していくことは業界の使命といえます。そのような意味からも技能GP、五輪に積極的に参加し、技術、技能を研鑽し技能者の人間性や社会的地位の向上に役立てていただきたいと思います。

エントリーされた選手が一人の欠席もなく全員が参加され、大会が成功裏に終了できました。厚労省、中職能をはじめ関係各位に厚く御礼申し上げます。